# 【vol.52】マイナーキー実践編　～その 1～　マイナーキーのⅡ－Ⅴについて

こんにちは、大沼です。

さて、これまで 3 回に渡って、マイナーキーの基本知識として、

・ナチュラルマイナースケール
・リラティブ・キーとの関係性
・マイナーキーのダイアトニックコード

について、学んできましたね。

やはり、まずはこの辺りの事を知っていないと、
音楽をやる上で、色々と不備があります。

どんな分野にも、「必要最低限の知識」
と言うものがありますからね。

と言う事で、ここ 3 回の講座で、マイナーキーについての
基本は抑えたので、今回からは実戦です。

で、何をやるのかと言うと、

『マイナーキーのツー・ファイブに対するソロの弾き方』

を、学びます。

いきなりソロかよ！と思うかもしれませんが、
マイナーキーのツー・ファイブ進行を理解するには、
実際の弾き方で学んでしまった方が効率が良いので。

とは言え、いきなり対応法を全て学ぶ訳ではなく、
まずは、「基本的な理屈と考え方」についてです。

それでは始めていきましょうか。

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved

まず、key はいつものように key=Am で。改めてダイアトニックコードを確認してみましょう。

**※A マイナーキーのダイアトニックコード**

| | | | |
|---|---|---|---|
| **Ⅰ m** | **(Ⅰm7)** | **Am** | **(Am7)** |
| **Ⅱ m(♭5)** | **(Ⅱm7(♭5))** | **Bm(♭5)** | **(Bm7(♭5))** |
| **♭Ⅲ** | **(♭ⅢM7)** | **C** | **(CM7)** |
| **Ⅳ m** | **(Ⅳm7)** | **Dm** | **(Dm7)** |
| **Ⅴ m** | **(Ⅴm7)** | **Em** | **(Em7)** |
| **♭Ⅵ** | **(♭ⅥM7)** | **F** | **(FM7)** |
| **♭Ⅶ** | **(♭Ⅶ7)** | **G** | **(G7)** |

もう見なれたコード群ですね。これらのコードもメジャーキーの時と同じように、
トニック(T)、ドミナント(D)、サブドミナント(SD)に分類します。

正直なところ、マイナーキーのダイアトニックコードの分類は、
正確に解説すると少し複雑なので、まずは重要なところだけ把握していれば十分です。

今後必要になった時に、表を見ながら分析していけば良いので。

で、大まかには以下のようになるのですが、まずは赤字で示したインターバルのコードのみ、
役割を覚えてください。

**※A マイナーキーのダイアトニックコードの分類**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ m** | **(Ⅰm7)** | **Am** | **(Am7)** | **T(主要和音)** |
| **Ⅱ m(♭5)** | **(Ⅱm7(♭5))** | **Bm(♭5)** | **(Bm7(♭5))** | **SD** |
| **♭Ⅲ** | **(♭ⅢM7)** | **C** | **(CM7)** | **T** |
| **Ⅳ m** | **(Ⅳm7)** | **Dm** | **(Dm7)** | **SD(主要和音)** |
| **Ⅴ m** | **(Ⅴm7)** | **Em** | **(Em7)** | **D** |
| **※Ⅴ** | **(Ⅴ7)** | **E** | **(E7)** | **D(主要和音)** |
| **♭Ⅵ** | **(♭ⅥM7)** | **F** | **(FM7)** | **SD** |
| **♭Ⅶ** | **(♭Ⅶ7)** | **G** | **(G7)** | **D** |

さて、なぜかⅤ度に、ナチュラルマイナースケールの構成音からは
導き出されないコードが出てきましたね。

先の講座で、
『マイナーキーの時は、イレギュラー的に使うコードやスケールを変化させることがある』
と、お話ししたと思いますが、早速それが出てきました。

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved

と言う事で、ここがマイナーキーを攻略していく上で、
基本であり、一番重要なポイントなのですが、

**元々のマイナーキーのＶ度のコードは「Ｖ m7」になるのですが、**
**マイナーキーのⅡ－Ｖ－Ⅰの進行(終止形)の時は、Ｖ m7 をＶ 7 に変化させる**のです。

これにはちゃんと理由がありますので、詳しくやっていきましょう。

まず、メジャーキーのダイアトニックコードの分類を思い出して欲しいのですが、
**コード進行は基本的に、一番落ち着く、トニックコード(T)に進んでいく**、と解説しました。

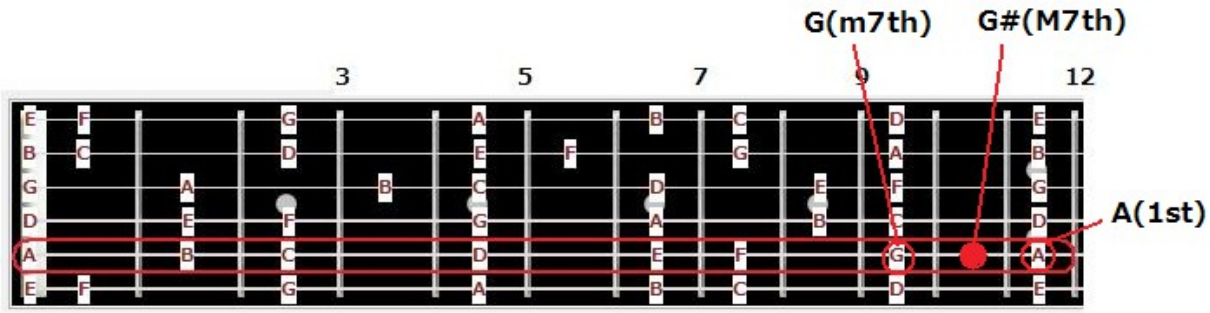
そして**不安定なドミナントのコードから、安定するトニックのコードに向かうＶ－Ⅰの進行は、**
**最も力強く自然な流れを生むので、強進行と呼び、楽曲の中でよく出てくる**、と。

この強進行が、なぜ聴覚上の安定感をもたらすのかについては、次回詳しく解説しますが、
実は、**Ｖ 7 の中のある 1 音が重要な役割を果たしている**のです。

で、その 1 音とは何かと言うと、**今回の key=Am の例では、**
**Ｖ 7 にあたる E7 コードの M3rd、G♯音がそれに該当します。**

key=Am の基準スケールである、A ナチュラルマイナースケールには、
本来、G♯音は含まれていませんよね？

key=Am のトーナル・センターである A 音から見ると、G♯音は M7th にあたります。

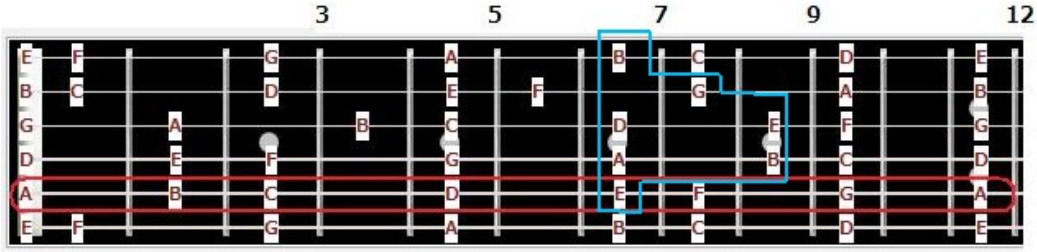



ここで一番最初の、key=Am のダイアトニックコード表を思い出して欲しいのですが、
本来、Ｖ度のコードはＶ m7 であり、key=Am の場合、それは Em7 が該当していますね。

| | | | |
|---|---|---|---|
| **Ⅰ m** | **(Ⅰ m7)** | **Am** | **(Am7)** |
| **Ⅱ m(♭5)** | **(Ⅱ m7(♭5))** | **Bm(♭5)** | **(Bm7(♭5))** |

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved

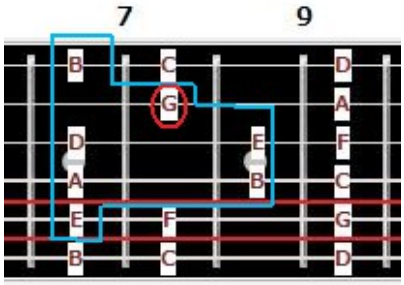
| | | | |
|---|---|---|---|
| ♭Ⅲ | (♭ⅢM7) | C | (CM7) |
| Ⅳm | (Ⅳm7) | Dm | (Dm7) |
| Ⅴm | (Ⅴm7) | Em | (Em7) |
| ♭Ⅵ | (♭ⅥM7) | F | (FM7) |
| ♭Ⅶ | (♭Ⅶ7) | G | (G7) |



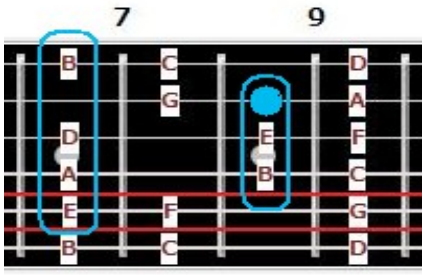

ですが 2 つ目に挙げた表では、主要和音としては、Ⅴ m7 ではなく、Ⅴ 7 が出てきています。

この 2 つのコードの違いは、コードを押さえてみるとわかりますが、
それぞれの 3rd にあたる音、G 音と G♯音ですよね。

**※Em7**




**※E7**



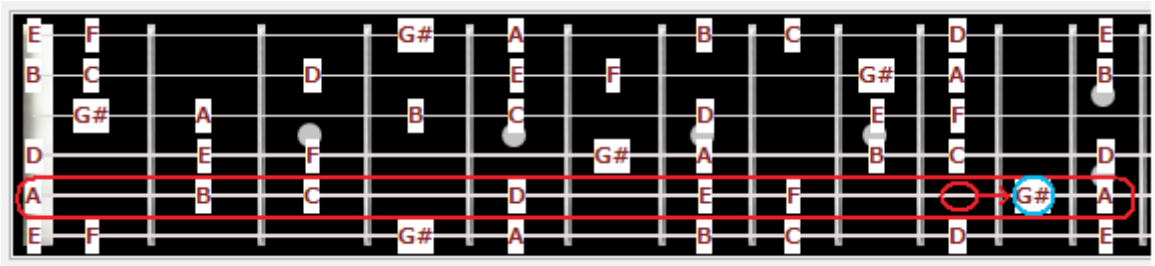

この 1 音の変化により、マイナーキーの強進行、即ちⅤ 7－Ⅰ m の流れが出来るのですが、
コードの構成音音が変化しているので、元々の基準スケールである、
A ナチュラルマイナースケールにも影響を与える事になります。

変化している部分は、先にも書いた通り、A ナチュラルマイナースケールの
m7th(♭7th)である G 音が、M7th にあたる G♯音になっている所ですね。

そしてこの変化により、A ナチュラルマイナースケールはどうなるのか？と言うと、
**「A ハーモニックマイナースケール」と言うスケールに変化します。**

**※A ハーモニックマイナースケール**

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved




このスケールの詳しい解説は、今後の講座でやっていきますので、
**ハーモニックマイナースケールは、ナチュラルマイナースケールの m7th を半音上げて、**
**M7th にしたもの**、とだけ覚えておいてください。

そもそも、なぜこのような変化をさせるのか？についてなのですが、これは、
**導音(どうおん、英語ではリーディング・トーン)**という概念が元になっています。

導音とは、**多くの場合、トーナル・センター(トニック)に対して半音下に接する音を指す**のですが、
**調性が聴覚上で明確である場合に、この音が鳴ると、半音上のトーナル・センター(トニック)に**
**進んで解決したくなる**のです。

この様に、「**トニックを導く音」として「導音(リーディング・トーン)」と呼ばれる**のですね。

今回の例で言うならば、A **ナチュラルマイナースケールの A 音や、**
**Am(Ⅰm)コードを事前に聴いていて、それがトニックである、と認識している場合、**
**G♯音を聴くと、半音上の A 音に進みたくなる(解決したくなる)**と、言うことです。

これは実際に弾いてみればわかります。

例えば、A ナチュラルマイナースケールを弾いた後、A ハーモニックマイナースケールを弾いてみると、G♯音を弾いた時点で、ナチュラルマイナーの時より強く、次の A 音に進みたくなる筈です。

コード進行の場合も同じで、元々の key=Am のⅤ m7 を使ったⅡ－Ⅴ－Ⅰである、

**Bm7(♭5)⇒Em7⇒Am7**

の進行よりも、

**Bm7(♭5)⇒E7⇒Am7**

の進行の方が、Ⅴ度のコードの時に、強くⅠ m7 に解決したくなりますよね。

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved 

これらの話をまとめると、

**ナチュラルマイナースケールのままだと、トニックに半音下で接する導音が無く、**
**ハーモニーとしては不安定なので、**

**ドミナントコード(不安定)⇒トニックコード(安定)**

**の流れをより強固にする為に、Ｖ m7 を、導音を含んだＶ 7 に変えて、**
**よりナチュラルな解決を促す**、ということです。

先ほども例に出しましたが、Em7⇒Am7 よりも、
E7⇒Am7 の方が明らかに解決感が強いですよね？

この様な理由から、マイナーキーのダイアトニックコードとしては本来出てこない、
Ｖ 7 というコードがドミナントとして出てくるのです。

と言う事で、今回はこの辺りで一度区切りたいと思います。

段々と解説が、専門用語のオンパレードで複雑になってきましたね。

基本的には、まだ解説していない言葉は使っていないはずなので、
よくわからない単語や概念が出てきたら、過去のテキストを復習してもらえれば
きっとわかるはずです。

重要なのは、頭で理屈を理解するのと一緒に、実際にギターで弾いてみて、
耳でも理解しておく事です。

今回やったこととしては、

**・ナチュラルマイナーとハーモニックマイナーのスケールの違い**

**・導音の意味と効果**

**・Ｖ m7⇒Ｉ m7 と、Ｖ 7⇒Ｉ m7 の解決感の違い**

と、こんなところですね。

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved 

それぞれのスケールやコードをじっくりと聴きながら弾いてみて、
耳でどう感じるのか？と言う部分を確認しておきましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved 